三和中央病院

医療法人 清潮会 三和中央病院　広報誌

２０１０年７月発行　No.5

POCO a POCO

（ポコ・ア・ポコ）

発行人：塚崎　稔　　発行所：長崎県長崎市布巻町165-1
TEL 095-898-7511・FAX 095-898-7588
http://www.sanwa.or.jp
印　刷：昭英印刷有限会社　長崎市平野町13-13　TEL 095-844-0231

POCO a POCO（ポコ・ア・ポコ）とは…
ポコ・ア・ポコとは少しずつという意味があり、何事も少しずつ、徐々に良くなっていければなとの思いを込めてみました。

基本理念　安心できる、こころ温まる医療

基本方針

1．私たちは誠実で親切な心をもって医療に従事します。
2．私たちは人権を尊重した良質な医療を提供します。
3．私たちは地域精神医療と地域ケアを実践していきます。

第33回　日本内観学会　長崎大会

＜目　次＞　CONTENTS

P2・・・・　第３３回日本内観学会長崎大会
P3・・・・　新任医師紹介・部署紹介（外来）
P4・・・・　専門外来紹介（アルコール・認知症・児童思春期）
P5・・・・　コラム①（岩田副院長）・コラム②（松本副院長）
P6・・・・　挨拶標語・研修

第33回 日本内観学会 長崎大会

第３３回日本内観学会長崎大会が開催されました。６月２５日より３日間、長崎ブリックホールで行われました。今大会のメインテーマ“こころの平和を求めて”。人間の“こころ”には感謝や素直さを持ちつつ、“平和な”社会を実現したいという願いがあると思います。それは内観の目指すところでもあります。

今大会は長崎では初めての大会でもあり当院の塚崎稔院長が実行委員長を務め大会事務局を当院スタッフが務めさせてもらいました。

多数参加者もあり、「内観」に対してとても興味深い公演、貴重な体験をすることができました。

第１日目は「スピリチュアリーの意味」と題してパネルディスカッションがありました。コメンテーターとして、日本内観学会の巽信夫理事長、パネリストとして長崎ウエスレアン大学の内村公義教授、日本ヨーガ療法学会の木村彗心理事長、指宿竹元病院の竹元隆洋院長を迎えて当院の塚崎稔院長が司会を務めました。

第２日目は「現代の若者のこころを考える」と題しての公開シンポジウム。司会を長崎大学医学部小澤寛樹教授、コメンテーターを奈良女子大学の真栄城輝明教授、シンポジストとして多布施内観研究所の池上吉彦所長、佐世保学園の長増敏洋法務教官、上海交通大学の王祖承教授、当院の松本喜代隆副院長。

教育公演は「“言葉が心をつくる”ということ」～ナラティブからみた内観療法～と題し講師として、長崎純心大学の児島達美教授をお迎えし帝塚山大学の三木善彦教授に司会をして頂き“言葉”というものの意味についてとても興味深い公演をして頂きました。

第３日目は特別公演として「長寿社会を良く生きるコツ」～祈りの町の長崎で自分の体への祈りについて考えてみる～と題してメンタルクリニック滴水苑の高口憲章院長の公演に司会は蓮華院誕生寺の大山真弘先生。２番目の特別公演として「原子野に立つ永井　隆」～科学者として、信仰の人として～と題して、長崎純心大学の片岡千鶴子学長の公演、司会を道ノ尾病院顧問の能登原勉先生が務めていただきました。
また内観を体験された方の体験発表も行われました。

新任医師紹介

渡部　幹次（精神科医）

趣味：読書

<ひとこと>

まだまだ右往左往していますが落ち着いた診療を目指したいと思います。よろしくお願いします。

部署紹介【外来】

当院の外来は、待ち時間の軽減を図る為に予約制をとっています。
外来を受診される患者様やご家族の方々は、不安や悩みを抱え、勇気を持って受診されることが多く、そういう中での私たち外来スタッフのかかわり方が重要になってきます。

三和中央病院を受診して良かったと思われるように、当病院の看護理念である「心にとどく看護」を日々実践していきます。

また、患者様、ご家族の方が安心して生活がおくれるように、外来スタッフを含め多職種のスタッフでかかわりを持って対応していきます。

専門外来の紹介

アルコール依存症専門外来について

アルコール依存症の患者さんの治療の原則は外来治療です。通院しながら断酒をすることが本来の治療なのです。なぜなら酒のない環境（入院環境）では飲酒はできませんが、酒のある環境（外来環境）で断酒をしてこそ実生活のなかで意味のある人生を見いだせるからです。

そのため、当院では患者さんに断酒生活の実感を味わってもらうために外来断酒治療プログラムを提供しています。酒のある環境でいかにして酒なしの人生を作り上げていくか、治療スタッフとともに考えてみませんか。もしかすると楽しい人生の発見があるかもしれません。

三和中央病院　院長　塚崎　稔

●アルコール依存症専門外来プログラム

断酒学習会・・・・・・・・・・・アルコール依存症の知識や酒害について学びます。
断酒会・・・・・・・・・・・・・地域の断酒会員による例会が行われます。
みのる会（患者会）・・・・・・病院を退院された患者さんの集いの場として開催しています。
外来内観療法・・・・・・・・・依存症に対する認知療法として行います。
デイケア・デイナイトケア・・・退院後、再飲酒の不安を和らげ断酒継続していくためのリハビリテーションとして実施しています。

認知症専門外来について

当院は７５５床の精神科病院です。うち３６０床が老年期精神科病棟です。

入院治療が必要な老年期認知症・うつ病・幻覚妄想状態の患者さんを診て（看て）います。当院の老年期病棟の特徴は、一般の老年期精神科病棟の他に、老年期精神科と内科を併せて診る病棟と、内科医と精神科医が協力して診る病棟を準備している事です。

以上は、入院認知症の場合です。認知症に関しては、精神科病院に入院が必要なケースだけではないので、認知症専門外来にて、①もの忘れ外来、②認知症の問題行動を外来通院で治療する認知症外来、③介護保険施設への入所が検討されるレベルの施設入所認知症のマネージメントもしております。

いずれの場合も、入院認知症の経験を生かして、外来患者さんの治療とマネージメントをしています。また、急変時は当院に入院可能なので、何かと御安心です。

認知症専門外来を受診希望の方は、当院の医療社会福祉部に御連絡いただき、受診日の御予約をおとりください。

三和中央病院　副院長　岩田　信之

児童・思春期外来について

原則として１８歳以下の年齢の人を対象に行なっています。疾患や相談の種類は問いません。また、どうしても子どもさん本人が来院できない場合もご家族や、関係者だけの相談にも応じています。

[redacted]

電話での予約制としていますので、まずはお電話をお願いします。

三和中央病院　副院長　松本　喜代隆

Column (コラム) ①

『偶然と共時性』

三和中央病院副院長　岩田　信之

私が**実際**に経験したお話を**２つ**紹介します。**一つ目**は数年前、病院で**当直**の時。深夜の２時頃病棟に呼ばれました。結局、死亡診断書を書き、御家族に説明して、自室に帰るべく**暗い**廊下を歩いていました。途中で、ふと思いついた事を常備のメモパットに記入しようと思い立ち止まりました。すると廊下の私が立っている場所だけ**電灯**が**点いた**のです。スイッチは廊下の壁にありますが**人影**はありません。その明かりでメモを書き終わり、廊下を先に進もうとした直後、ライトは**消灯**しました。これはかなり不気味な真夜中の実話です。この日の事務当直はＫ係長。廊下の照明の点灯は**事務宿直室**の**一括操作パネル**でも可能だそうです。患者さんの家族のため、Ｋさんは**宿直室**で**廊下**の照明を点けました。この時**ミス**して**違う**廊下の照明を**点けた**そうです。宿直室にいた彼は**しばらく**気付かず、廊下に出て気付き、宿直室に戻り、廊下の照明を**消し**ました。この**両者**の**偶然**の**行動**が、**時間的**にも**一致**したのでした。

二つ目は今年の話。私が当直していた日曜日の早朝、病棟の当直看護師のＭさんからTEL。患者Ｎさんが熱発。因みにこの日の日勤リーダーがＳ主任。丁度４週間後、同じ日曜の同じ早朝の同じ患者さんの同じ熱発で同じ看護師のＭさんからTEL。この日の夜勤リーダーがＳ主任。

皆が体験して**いる**不思議な現象。皆が体験して**いない**不思議な現象。**前者**は例えば、『**デジャブ**（既視感）』。**後者**は私の場合、『**予知能力**』がある---と思われる節があります。地震や犯罪を予知するのではなく、私の頭に**浮かんだ**事が数日以内に**実現**、或いは**その逆**になるのです。起こる事**を**予知するのでなく、思った事**が**実現する・或いはその逆になります。『デジャブ』は皆が経験しているので確かですが、この『私の予知能力』は皆が追認出来ないので、他人に話すと、「胡散臭い」眼で見られる事となります。

この「胡散臭い」テーマを心理学者**ユング**は『**共時性**』、『**シンクロニシティ**』と呼んでいます。

ネットで調べてみると、「**心**に思う浮かぶ事象と、**現実**の出来事が**一致**する事」。『私の予知能力』はこのタイプ。「**意味**のある**偶然**の**一致**」（非因果的な出来事の関係）は、上記の二つのお話。

この「胡散臭い」テーマは、**経済学**の世界にもあるようです。映画『**ビューティフル・マインド**』は一見の価値ありです。**数学**の世界にもあるようです。数学者**ゲーデル**が１９３１に発表した「不完全性定理」。「正しいとも正しくないとも判定出来ない命題が存在する」事を証明しました。**哲学界**にも大きな騒動を起こしたそうです。（世にも美しい数学入門。藤原正彦。筑摩書房。）何をするにつけ、おおもとでは、哲学用語の『**アプリオリ**（＝先験的）』に、証明を要さない真理を信じていますので、不確かな命題の存在は、とても困ります。おしりが落ち着きません。

Column (コラム) ②

『失敗が許されない人生』

三和中央病院副院長　松本　喜代隆

精神科の病院には、何年もあるいは何十年もの長期にわたって入院している患者さんがいます。長期化している理由は個々に様々なのですが、日常的に、病棟の中で繰り広げられているやりとりがあります。

「どうして一人で買い物に行かせてくれないの？」「そのまま帰ってこなくなるのが心配だから」「ちゃんと帰ってくるよ」「この前もそういって、寒い日に行方不明になってずいぶん心配したもの」「もうあれから何年たったと思ってるの。どうして私の気持ちをわかってくれないの。何年も何十年も閉じ込められている苦しさがわからないの？」「いっしょに行こうよ」「違う。一人で行きたい！自由に買い物がしたい！」「うーん、気持ちはよーくわかりました。ちょっと考えさせてね」

たとえ言い方はマイルドであったとしても、結果的にはダメ出しを続ける私たちの対応は、その患者さんの人生の、いったい何を目標としていることになるのでしょう。

私たちには失敗する自由があります。失敗する自由と、失敗したくない気持ちを、ともに行使できるのは当たり前のことです。

「自由こそ治療だ」という精神科医療のスローガン（イタリアなどでは実践事実でもありますが）を考えるときに、患者さんの失敗する自由が、あまりにも神経質に刈り取られている現状との深いギャップに立ち止まらざるをえません。

病気で苦労してきた患者さんへの、「失敗してほしくない」「再び傷ついてほしくない」という気持ちが、転じて「失敗の兆候を早めに見つけて対処する」「失敗しそうなことはさせない」という保護的な対応になっているのだと思います。

失敗には、失敗のもたらす結果の予測から、事前に引き止めなければならないものも必ず存在します。しかし、結果を予測して失敗を防止する考え方だけでは、絶対安全と言い切れることなどありはしませんから、結果責任を考えれば、リスクはおかしにくいのです。私たちは結果責任を問われないように、せっせと失敗の芽を刈り取ることを日常業務としてしまいます。

そういう中でいつも考えるのです。こうして失敗がないようにないように援助？して、最後はとうとう無事に精神科病院の中で亡くなりました、となったとしたら、支援とは何なのでしょう。誰のための無事なのでしょう。その人の生きた証は何でしょう。

私たちには支援の哲学が求められていると思うのです。安全の絶対性を突き詰めすぎなければ、予測は、「失敗する自由」と共存できるかもしれません。

もちろん「失敗する自由」が、家族の多大な犠牲の上にのみ成り立つ、ということがないような支援態勢が不可欠です。同時に、ご家族のみなさんに了解をいただき、共有できるような支援の考え方こそが必要なのだと思います。北海道・浦河の「ベテルの家」流に言えば、どの人にとっても「安心して失敗できる人生」が当たり前で、そのための支援を行なうという考え方です。冒頭のやりとりにはこの哲学と覚悟が欠けているのです。

あいさつ 院内挨拶標語

当院では医療の向上を目指す目的の一環として「あいさつの標語」を全職員から応募しました。多くの標語の中から優秀な３作品を選び、院内の掲示板や廊下など貼っています。とくに１～３月を「あいさつ強化期間」とし外来患者さん及びご家族の方にアンケートを行うことにより一層の職員の接遇（あいさつ）の向上を目指してまいりました。

あいさつは
心の中の
みだしなみ

広げよう
心に届く
挨拶を

(あ)明るく
(い)いつも
(さ)爽やかに
(つ)伝えよう

SPORTS NEWS

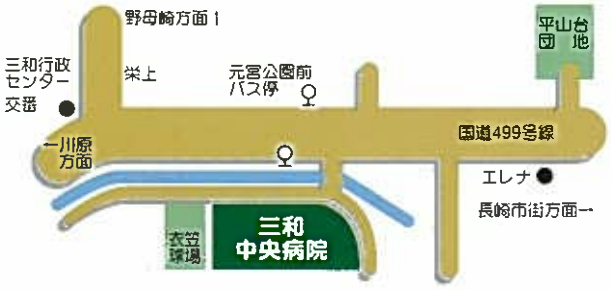
当院柴田Ｄｒが６月の長崎県マスターズ水泳大会、25m自由形で記録14・59秒で見事優勝！　おめでとうございます。

当院バレーボールクラブ「Ｃｈｒｅｅｙ」がメモリード杯病院新睦バレーボール大会のＣパートで準優勝！次回は優勝を目指します。

第35回日本精神科看護学会東京大会に参加して

北４病棟　堀　布美子

歴史ある慶応大学三田キャンパスでの全国大会に参加することができ、貴重な体験をさせていただきました。
今回の学会主題は「精神看護の未来を拓く」とあるように、今日おおきな改革時期にあり、それに伴って全国から様々な看護研究演題が発表され、高齢者が入院されている病棟しか経験のない私にとっては、違う分野の取り組みを聞くことができ、とても刺激を受けました。看護学会に参加して得た経験を機に一層、学びを深めていきたいと思います。



医療法人 清潮会　三和中央病院
診療科目：精神科・心療内科・内科・歯科
〒851-0494　長崎県長崎市布巻町165-1
TEL 095-898-7511・FAX 095-898-7588
E-mail：info@sanwa.or.jp